
ゼロと賢者と魔王サマ！？

霞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼロと賢者と魔王サマ！？

【Nコード】

N8019X

【作者名】

霞

【あらすじ】

正義感と負けん気が人一倍強いおれ、渋谷有利。とちよこつと頭のいい高校生、村田健。しかし実は異世界の王様・ゲームのラスボスの魔王サマと転生4000年異世界の記憶がある高校生！ その二人が、ハルケギニアに使い魔として召喚されちゃった！？

プロローグ（前書き）

…本編からのセリフの使い回しが多いと思います。

プロローグ

……おれはなかなか幸せな人生を送ってきたと思う。

おれの名前は渋谷有利。

…原宿は不利じゃないからね！

ごくごくフツの黒髪黒眼の高校生。

幸せな人生、と言うのは不良に絡まれた中学の時の知り合い・村田健を助けて返り討ちに逢い、トイレの便器に顔を（思い出したくないため中略）と思ったら欧風異世界についていて、超美形な人に、

「おめでとうございます、今日からあなたは魔王です！」

なーんておめでたくない宣言をうけて眞魔国（略称）の魔王に就任して、優秀すぎるが一癖も二癖も三癖もある部下を持って、さらに、決闘したり、他国のトップと会談したり、密航したり、絶食したり、誘拐されたり……。

……波瀾万丈ダナ。

「はあ……」

「どーしたの、渋谷ー？」

隣でノンキに聞いてくるのは村田健。

さっき言ったように不良に絡まれていた所を助けたのだが、ある日眞魔国に行ったときに一緒に来てしまい、その際に眞魔国を作った眞王の右腕・大賢者サマの生まれ変わり〜と言うことが判明した。今では仲良く眞魔国の未来について相談する仲だ。

「いや〜、おれって波瀾万丈な日々を送ってきたな〜と思って」

「確かにね〜、フツの高校生は王様じゃないもんね〜」

こうしてると4000年以上の記憶を持つとは思えないんだよなー。

「……ん？ おーい、渋谷ー」

「なんだー、ムラケンくーん」

「あれ、ナニー」

ムラケンが指差したのは……。

「…鏡？」

そう、光る鏡。

「眞魔国に行くときはいつつも水を通して行ったよねー」

「…オイ、ちよつと待て、これって危険じ……」

「ま、行ってみようよー」

と言っや否や、足をつっこむムラケン。

「のわ、引っ張られる」

「えっ、ちよ、ムラケン、ズボンを掴むな、脱げ、脱げる」

そんな緊張感のない会話をしながら鏡の中に吸い込まれる元凶ムラケンとおれ（被害者）。

「な、なあ、眞魔国行く時となんか違うぞ」

「あ、ほんとだー」

「ほんとだーじゃねーぞ、ほんとだーじゃー！」

「でももっ手遅れじゃないー？」

「ナニー!？」

そこまで話した所で、おれ達は鏡に飲み込まれたのでした……。

プロローグ（後書き）

今日からマのつく自由業！をしらない人でもわかるように書いたつもりですがどうですか？ 意見をお願いします。

第一話

?side

ドカーン、と言う100人中99人が爆発だと断言する音が響く。また失敗だ。

何をしているかと言うと、使い魔召喚の儀式である。

しかし、現れるはずの使い魔は全く現れず、起こるのは爆発ばかり。

「ミス・ヴァリエール、今日はここで止めに行いませんか？」

輝く頭部の教師、ツルベ……コルベールが言う。

「ミスター・コルベール！ しかし……！」

「分かりました、もしも次失敗したら召喚は明日にしましょう」

コルベール……いや、ツルベールにとっては精一杯の譲歩なのだろうが、私にとっては最悪だ。

『ゼロ』のルイズと蔑れてきたが今日こそはその汚名を返上したいのに！

「ルイズ、頑張りなさいよー」

につつきツエルブストーの声援が聞こえる。無視だ無視。

絶っつ対凄使い魔を召喚するんだから！

「宇宙の果てのどこかにいる私の下僕よ！ 神聖で美しく、そして強力な使い魔よ！ 私は心から求め、そして訴えるわ！ 私の導きに答えなさい！」

ドン、とひときわ大きな爆発音が響きわたる。

もくもくと立ち上る砂煙の中から黒い何かがちらつと見えた。

やった！ やったのよ！ 何かは分からないけど使い魔を召喚した！

表面上は落ち着いて、内面ではるるんと滅多に歌わない鼻歌まで歌っていた私だったが……、

「おい！ あれを見る！」

「平民だぞ！ ゼロのルイズが平民を召喚したぞ！」

その熱は言葉によってあつという間に冷まされた。

平民？

砂煙が晴れてようやく視界が良くなると、そこには人間がいた。

渋谷有利 side

「いててて……」

仰向けに倒れていたが、頭が痛い。

階段から落ちた時のように痛い。

ぐしゃ。

「え？」

村田健を潰していた。

「わー、スマン村田あ！ 成仏してくれえ！」

「人を殺さないでくれよ……」

あ、生きてた。

「で、ここは眞魔国……」

「おい、あれを見る！」

「平民だ！ ゼロのルイズが平民を召喚したぞ！」

思いつきり馬鹿にしたような笑いが起こる。

気分のいいもんじゃないね、うん。

「……じゃなさそうだね」

と言いかけた言葉を訂正して村田が髪を引っ張る。

「なんで分かんのか？」

「双黒双黒って騒がれないからね」

そうなのだ。双黒、つまり髪も眼も黒い人は不老長寿の妙薬って言

われていて、食材扱いなのだ。

あれは悲しかった、スパーに並ぶ魚の気持ちがあった気がする。

「てか、平民かー、魔王から平民って凄い差だね」

「大賢者から平民も凄いけどねー」

二人で言葉のキャッチボールをしていたのだが、

「え、ちょ、眞魔国じゃないならここどこ？」

「原点まで戻るのがに時間かかったね」

「いや、そこじゃないだろ」

二人で話していると桃色の髪の子が一步こっちへ踏み出した。

「あの子可愛いね」

「えー？ 君のこのフォンビーレフェルト卿のが可愛くないかい？」

「いや、ヴォルフは別だろう、男だし」

と言いながらあの金髪碧眼を思い浮かべる。

うん、確かにそこらの女の子顔負けには可愛い。

そんな会話をしているとあの桃色の髪の子が髪が絶め…（言う
と可哀想なので）している男につめよっている。

「ミスター・コルベール！」

第一話（後書き）

有利の口調がわからない……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8019x/>

ゼロと賢者と魔王サマ！？

2011年10月22日03時31分発行